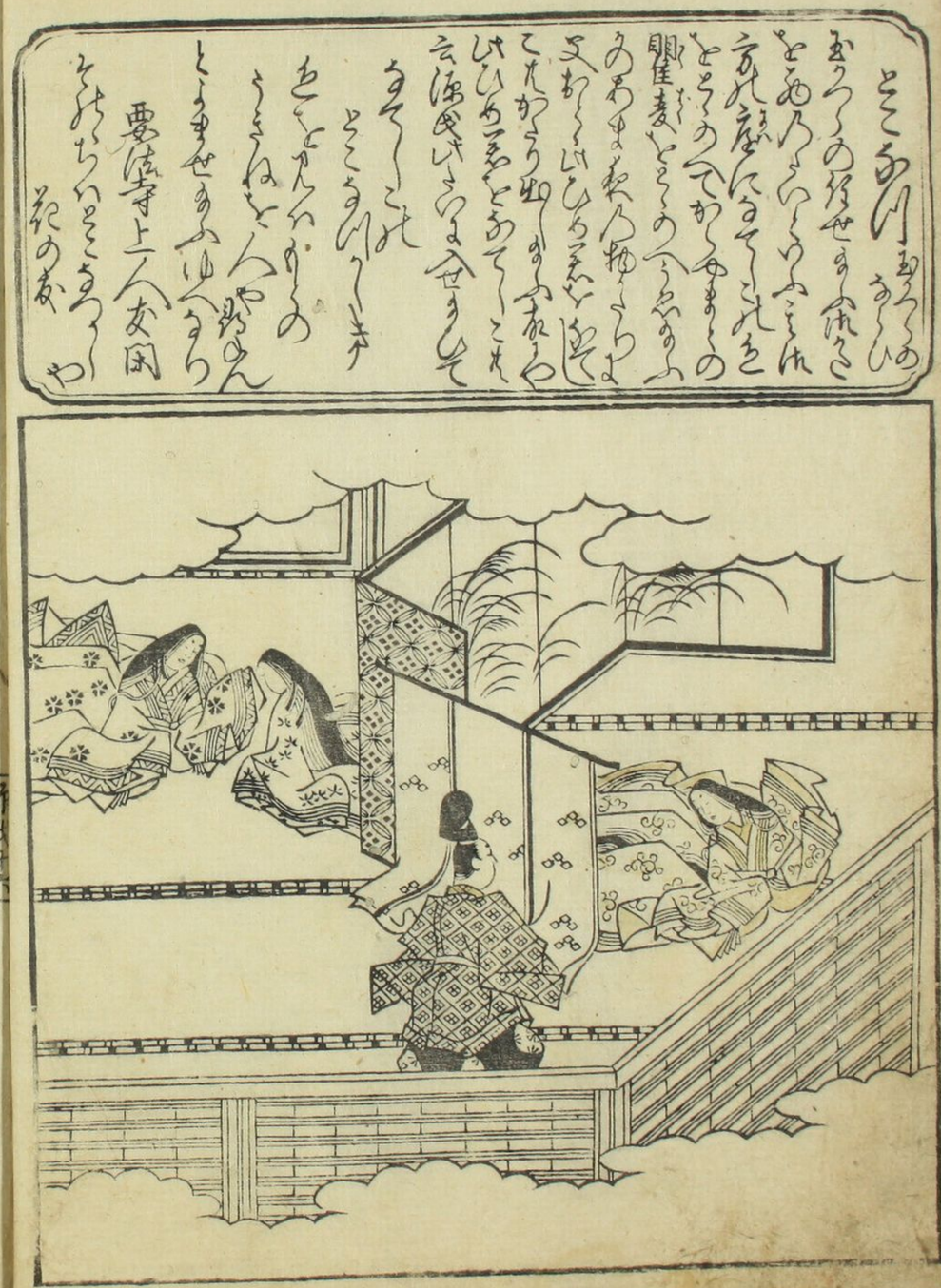
源氏補入文　下

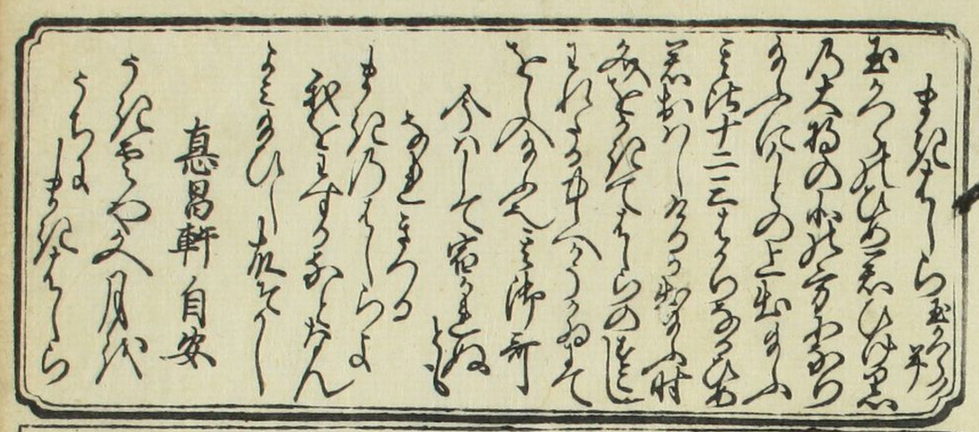
芳賀園蔵

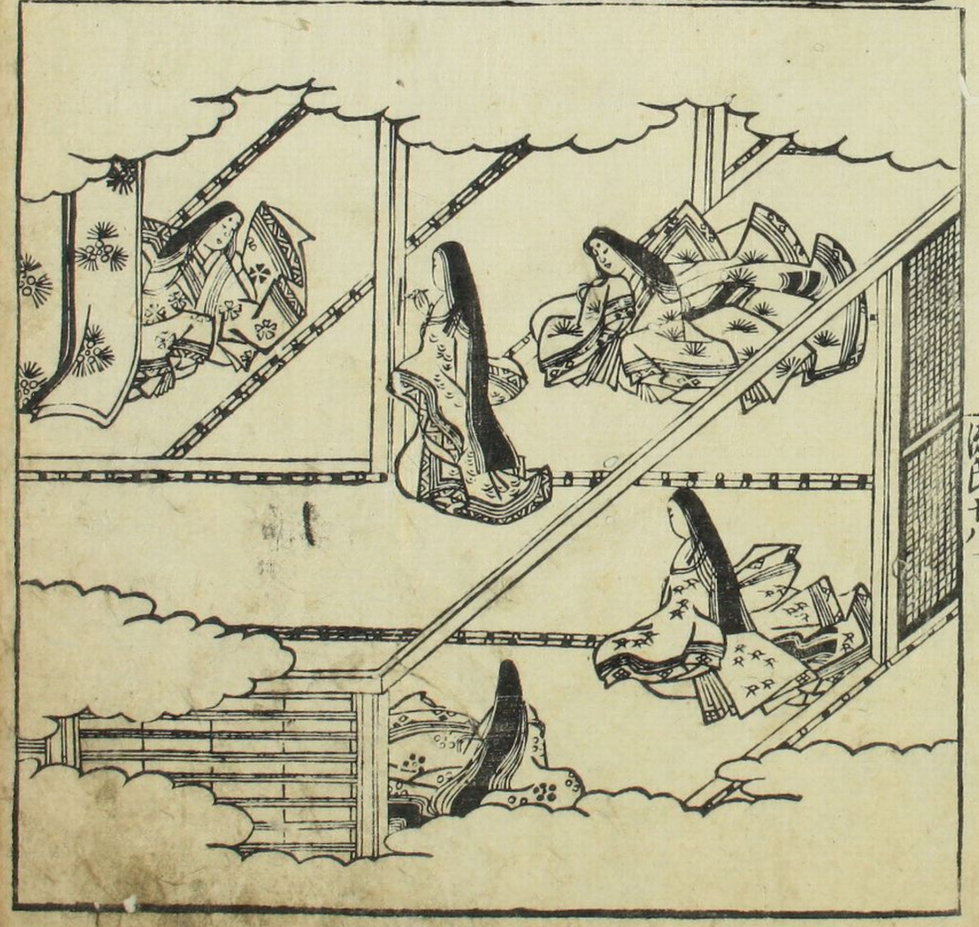
早稲田文庫



服部氏宣清

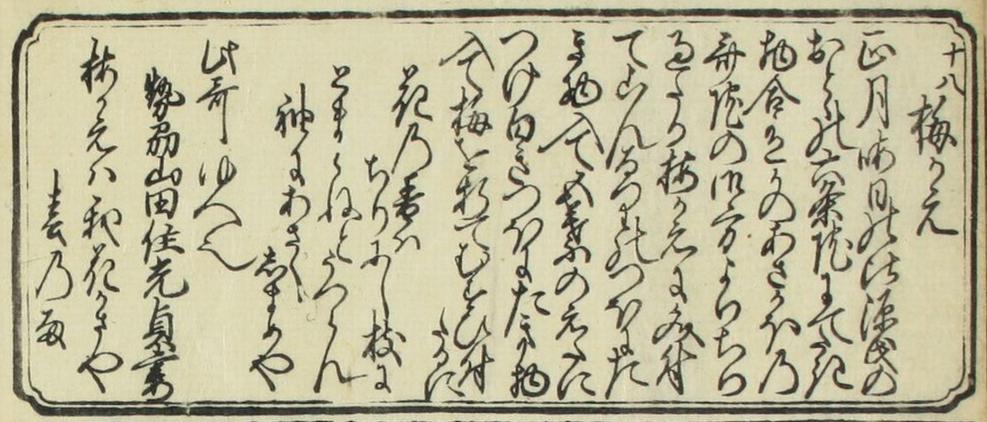
源氏酒





惠昌軒自安

十八　梅うえ



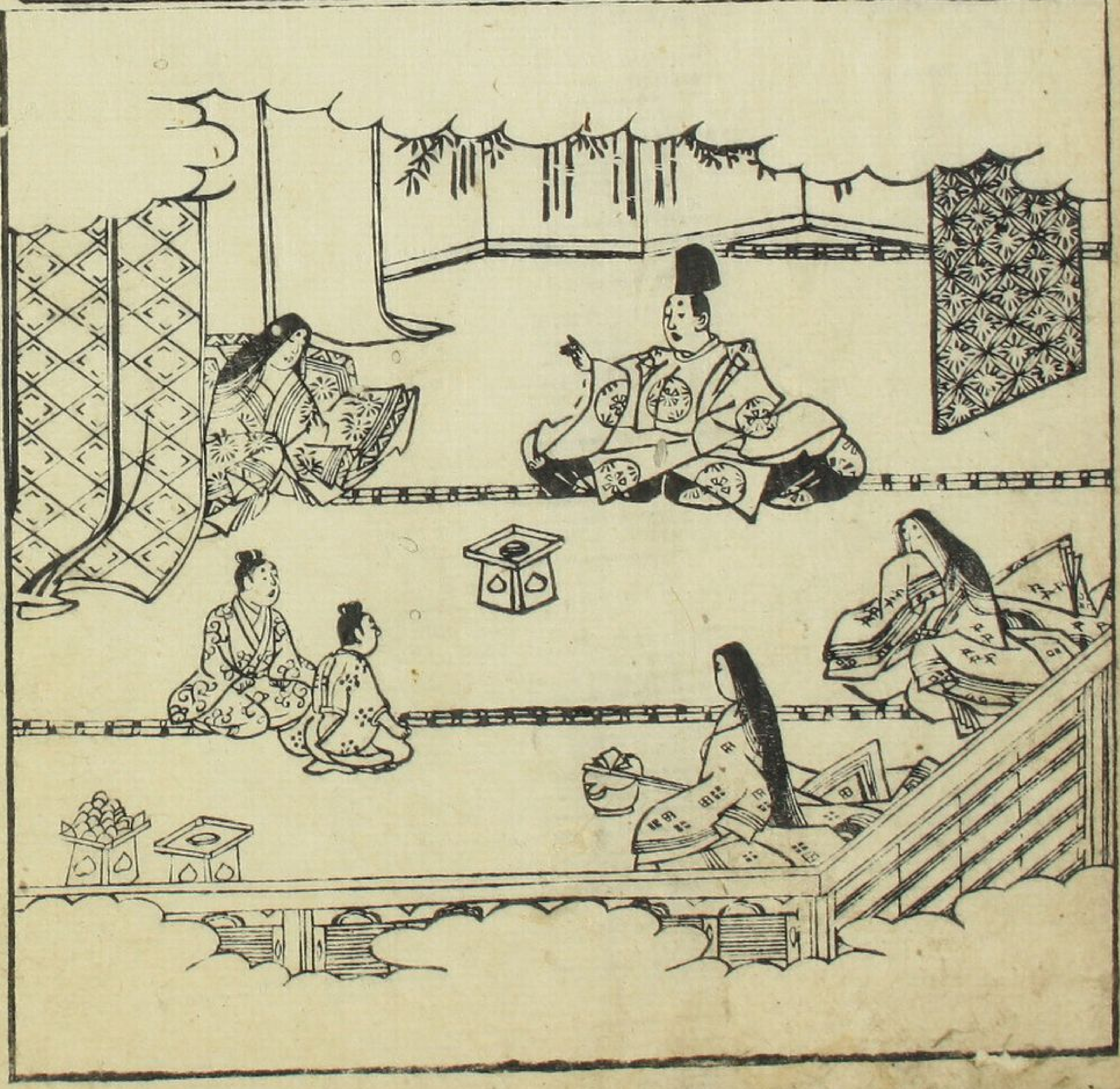
十九　菊乃うえ

奥西氏友三

わかな上

あくる年ひげくろの
北のかた玉かつらのま
うけまいり正月廿三日
子の日の御いはひに源氏
院の御かたへまいり若菜
をまいらせてつかうまつり
給ふての哥に
若葉さす野への小松を
ひきつれてもとの岩ねを
いのるけふかな
六条院の御返哥
小松原すゑのよはひに
ひかれてや野への若な
も年をつむべき
子の日のあそびはまことに
めづらしき事なり

荻野氏安静
書にあらはしや
菱川(ひしかはきちべい)師宣ちんでうち



わかな下

これ上の君にはさかの
いそれ程なる女房
さて女三の宮とて
まさのもろの殿にかけた
つてのうけさるかたの
まれ六条院まてくわ
ましにけれは衛門乃
とも来りなに家のかた
まゆみ柏木いてからさて
ぬ柏木をひてらかて
ふみ花囲へ(へ)さかけれ
人目ひさうて家も暮方
柏木御そのをかれて給を
るらんなの家わたり宮へ
まいりまてるかにをとにもえ
と源氏の御そ知りて思ひと

鴻章氏正伯
わかやかにつくりてさうろ
女いりかみ

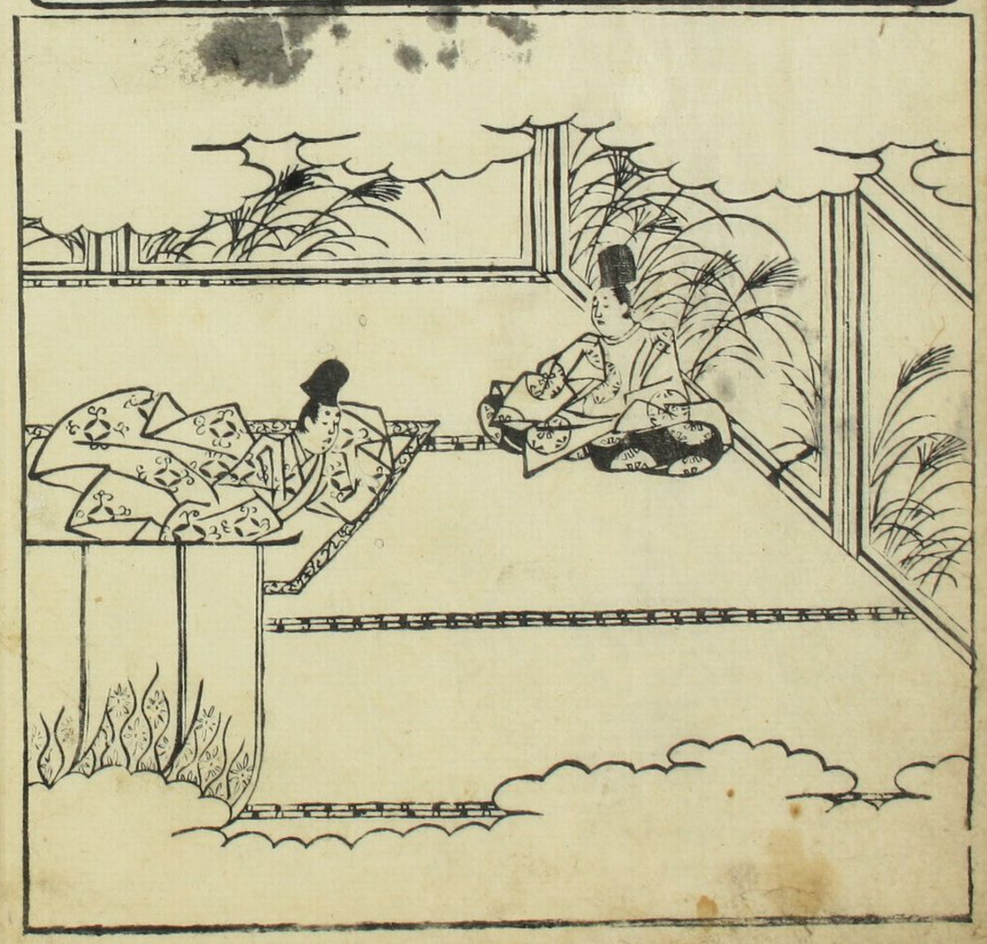
初ノ八木

[illegible]

中河氏吉雲

源氏酒

[illegible]

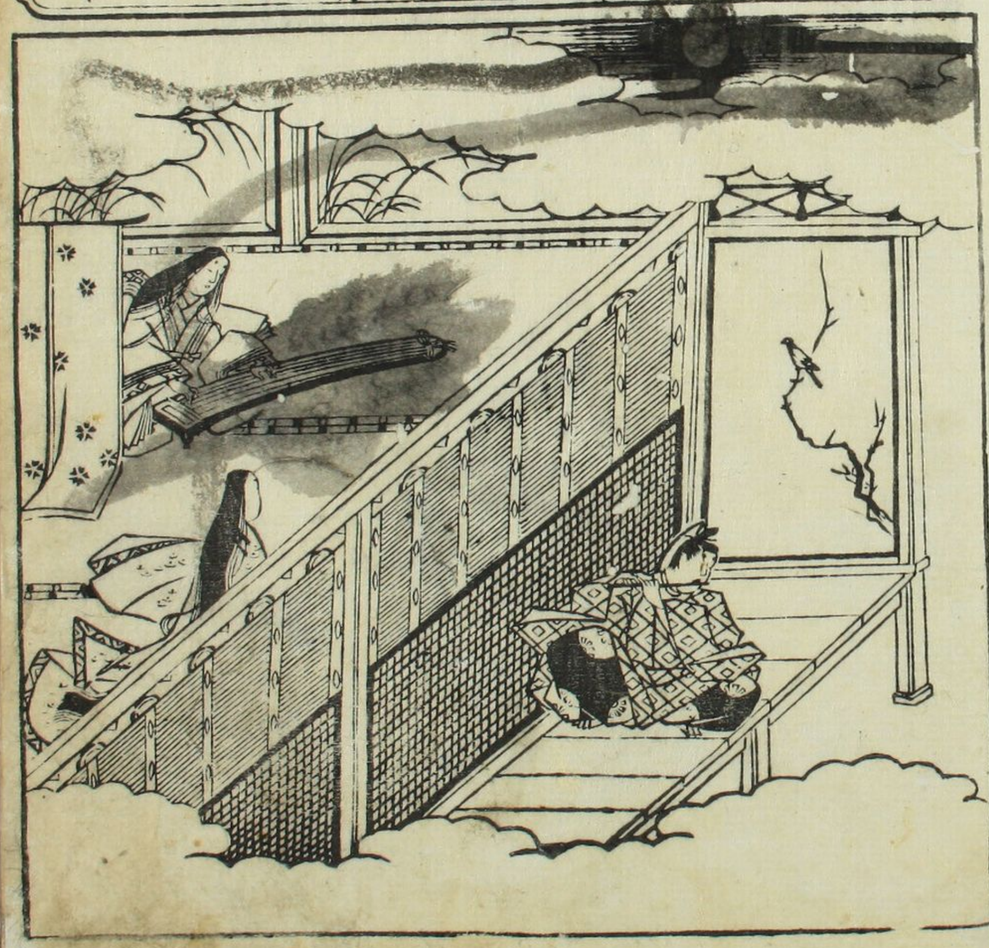


[illegible]

森田氏無秋

[illegible]

中[illegible]

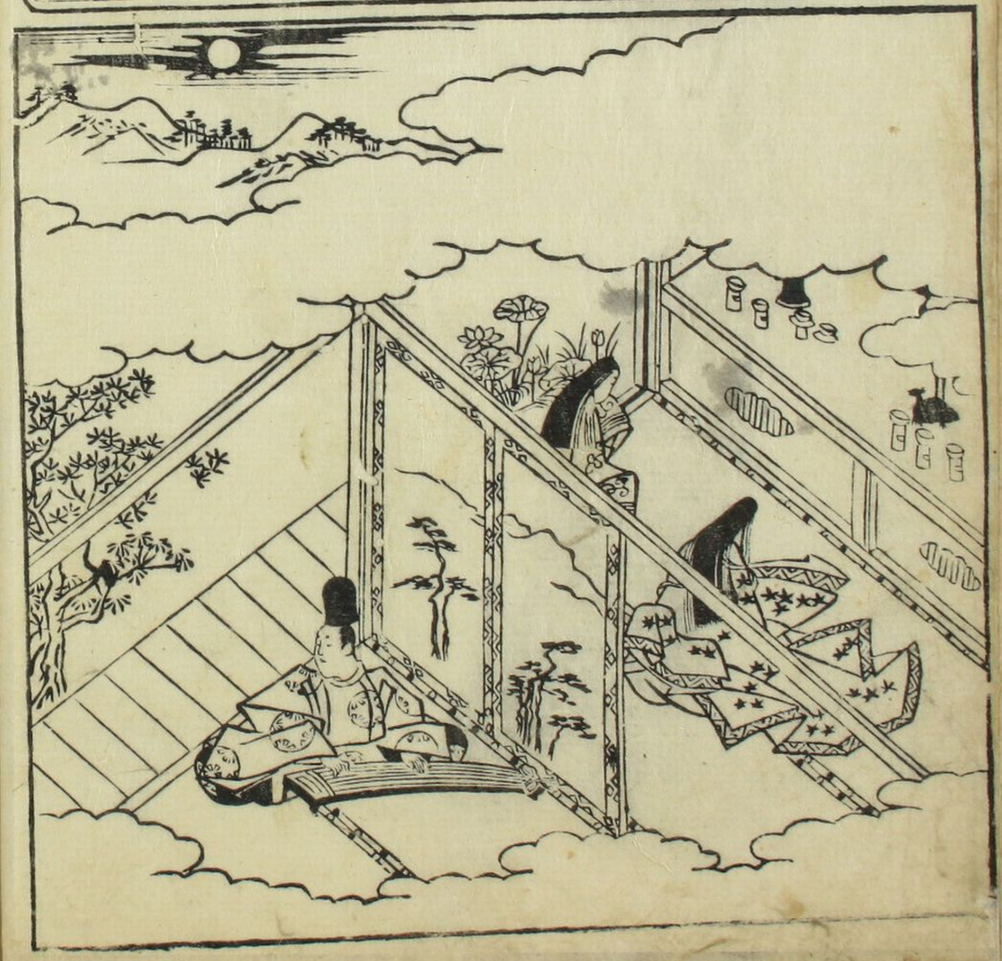


すむし

八月十六夜のあそび

源氏

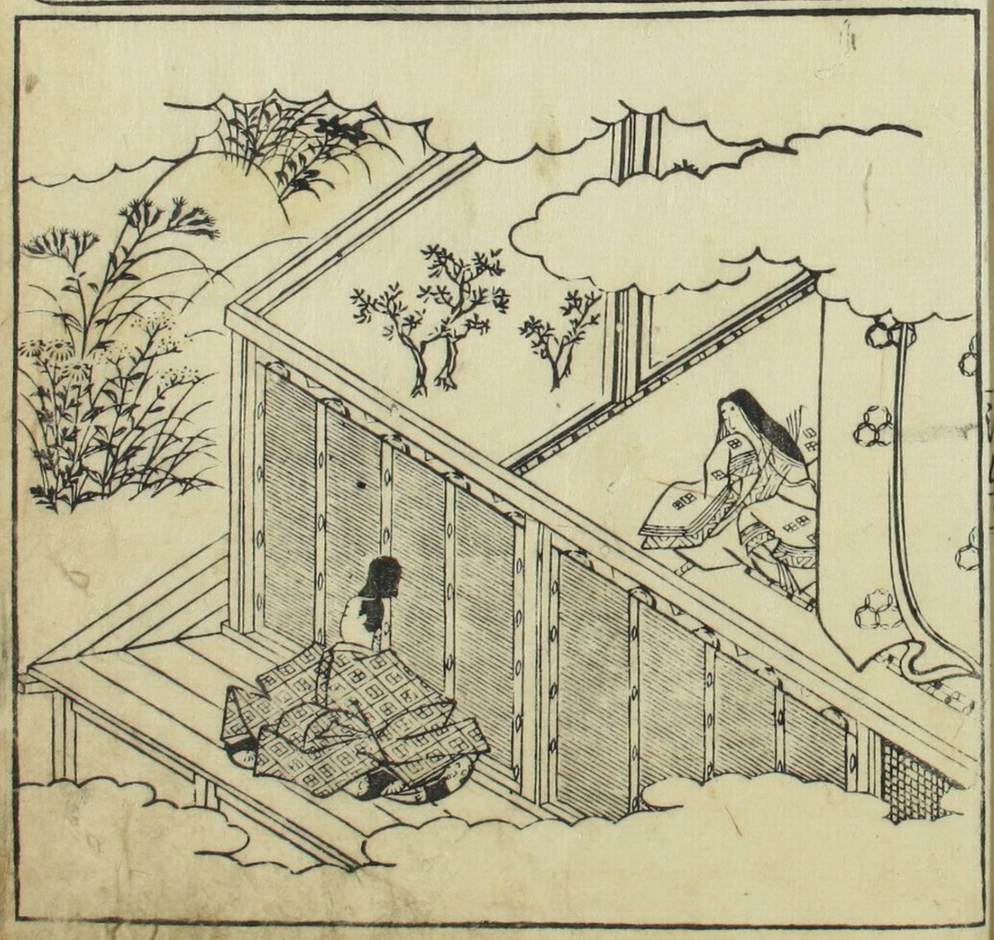
小村氏秀吟



夕ぐれ

大和小野とて名所

山里はあれはてぬと



十四 みのり

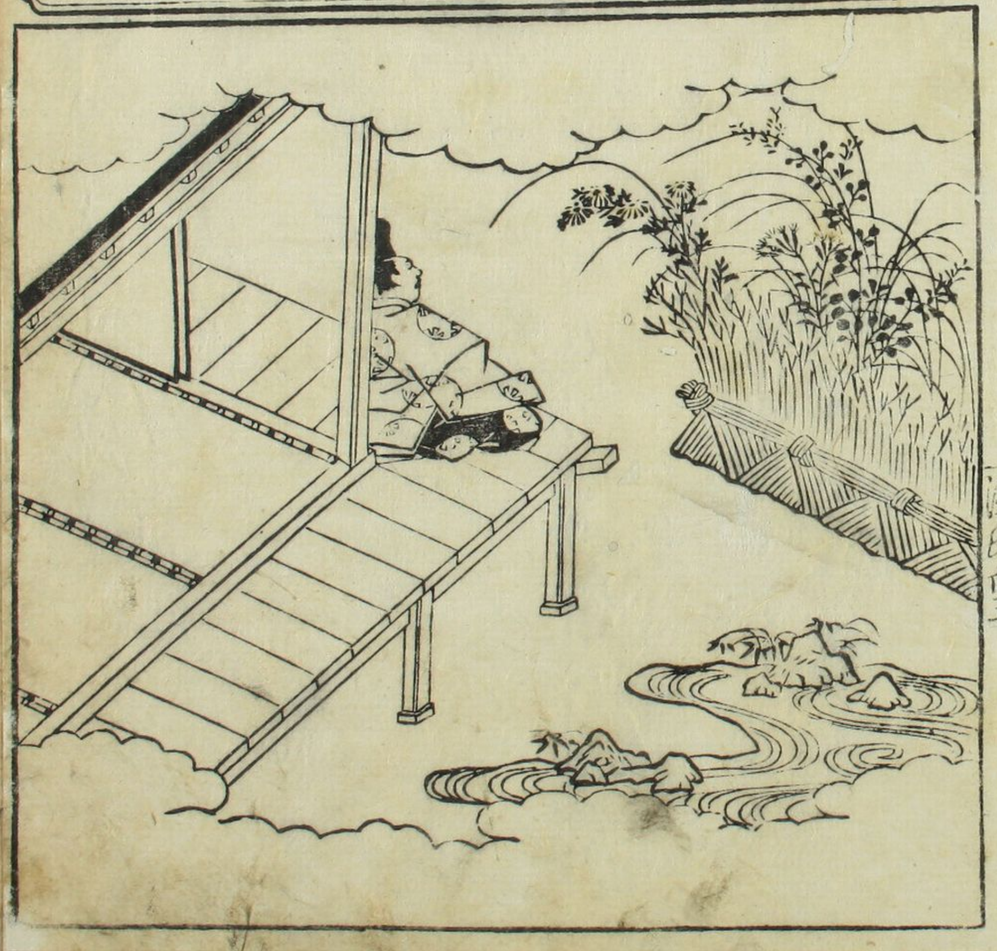
[illegible]

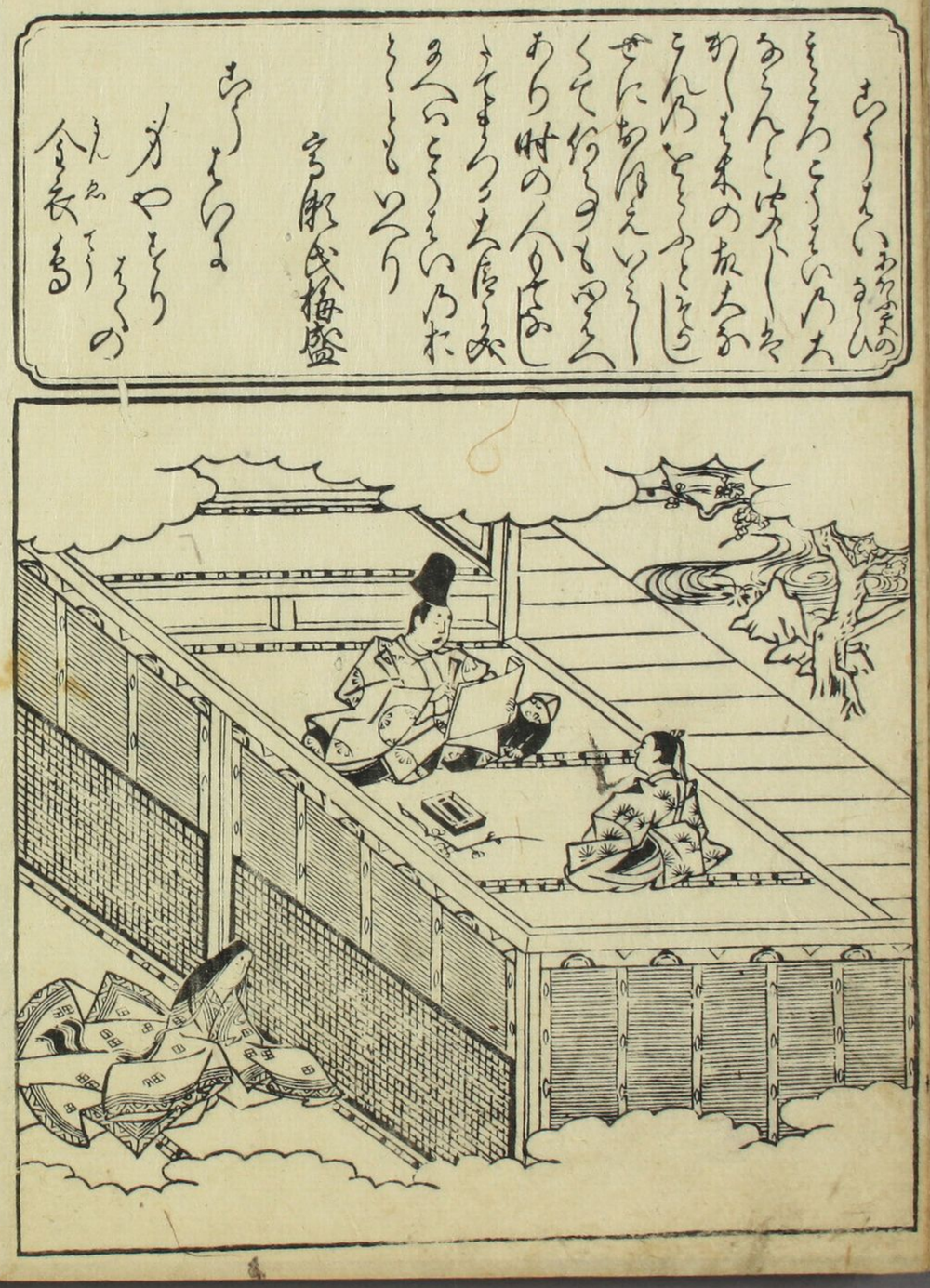
江戸住玄札
麻の角[illegible]
二月堂

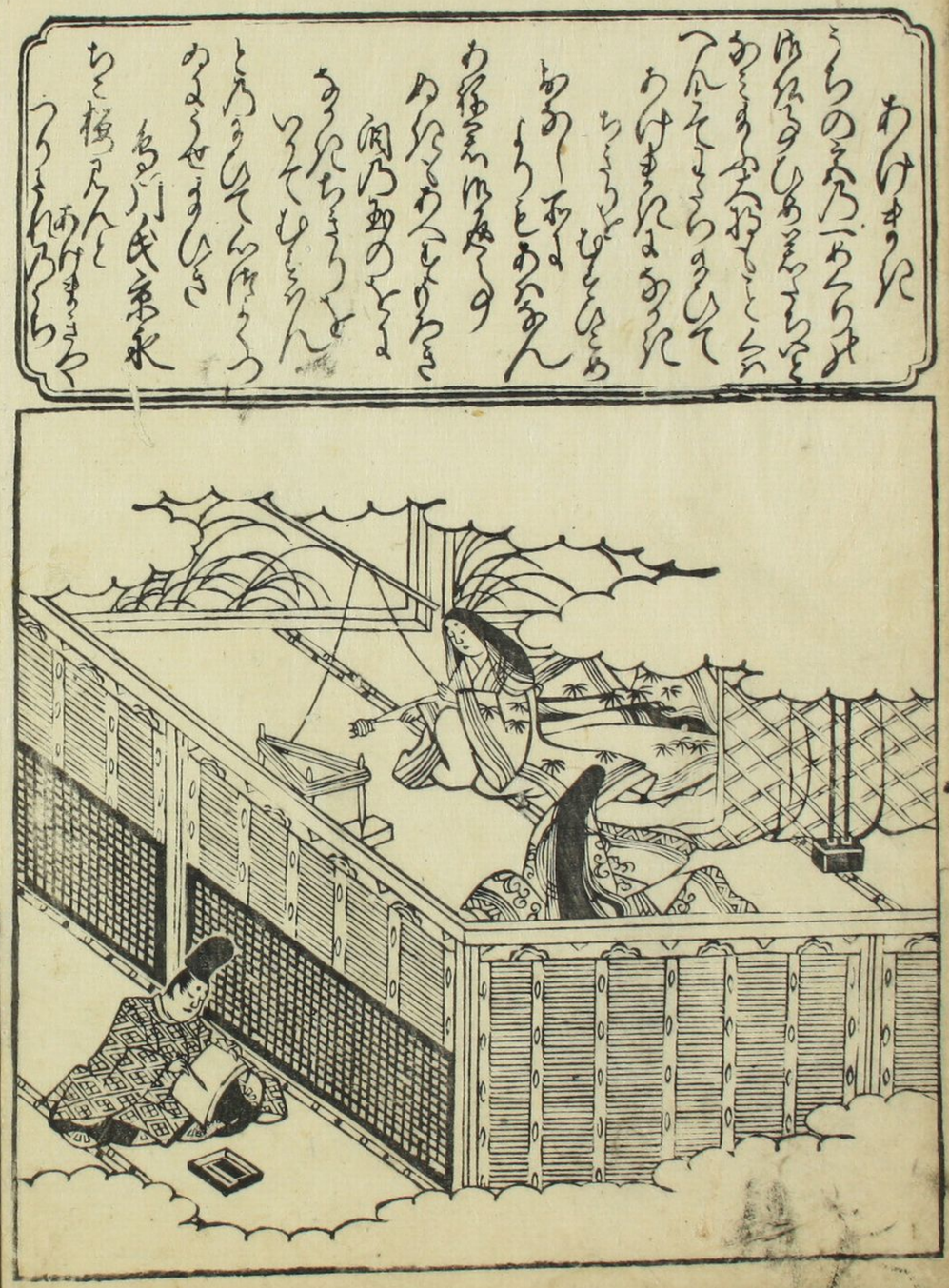
十五 [illegible]

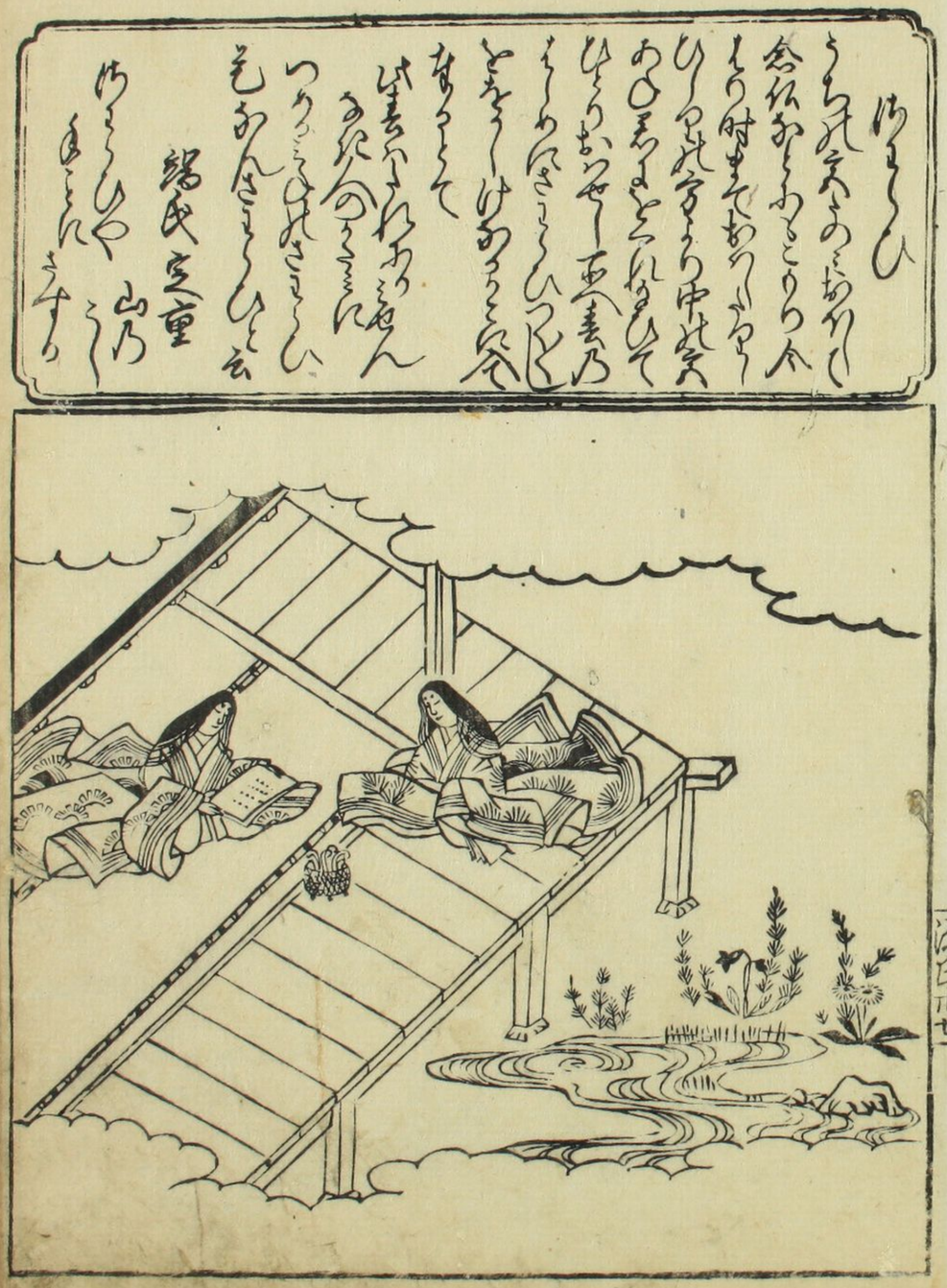
[illegible]

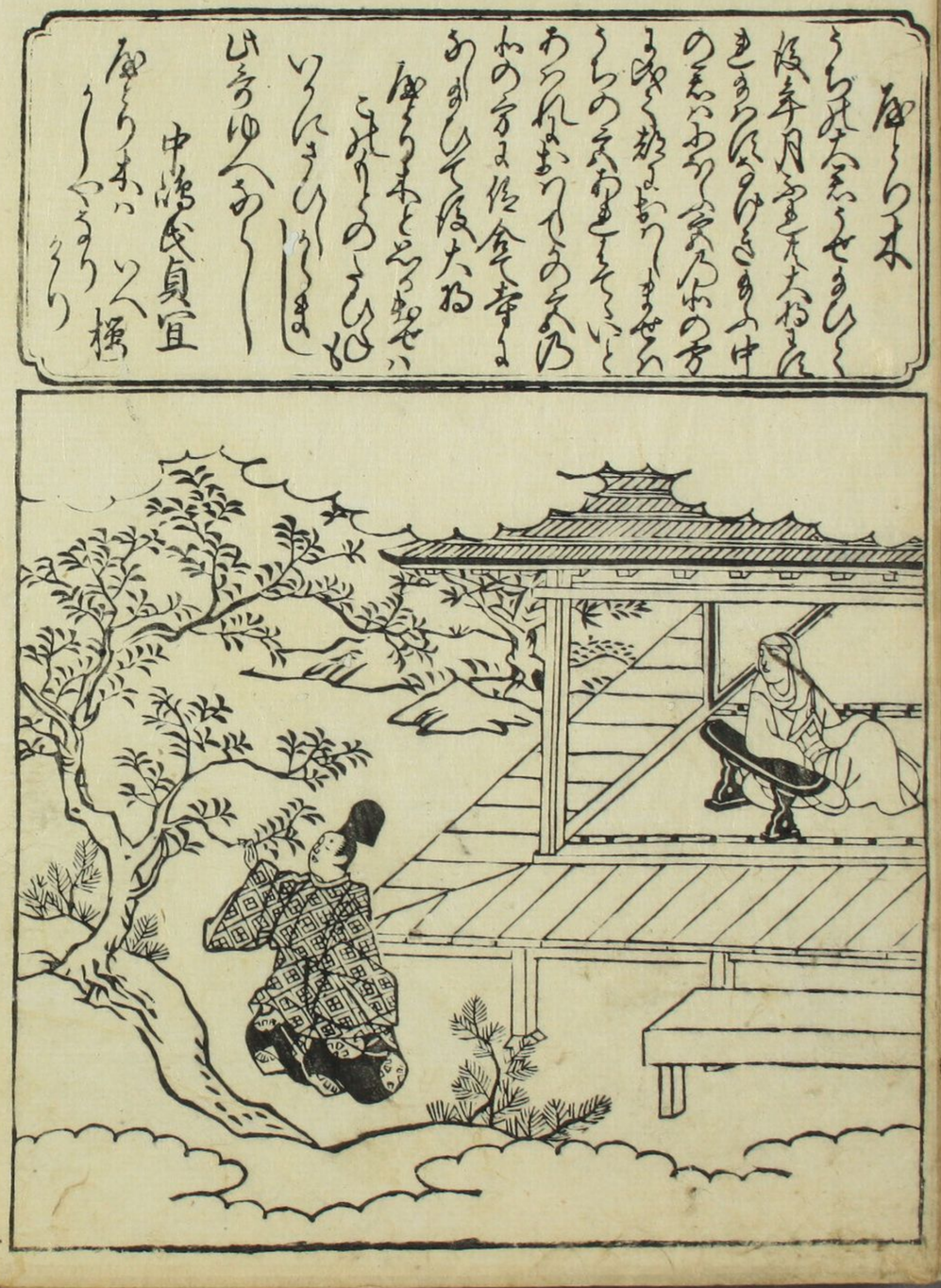
西村氏重俊
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]







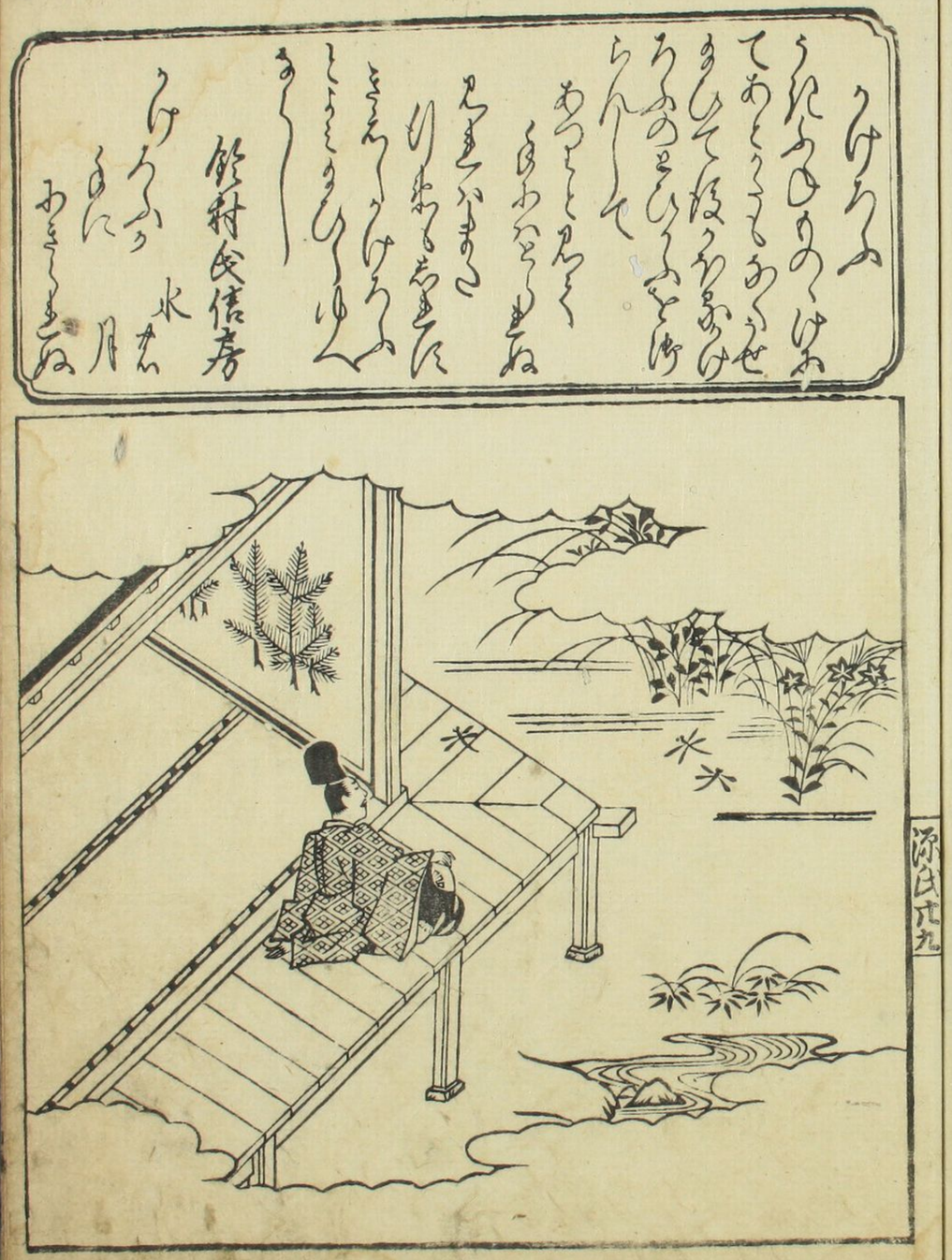




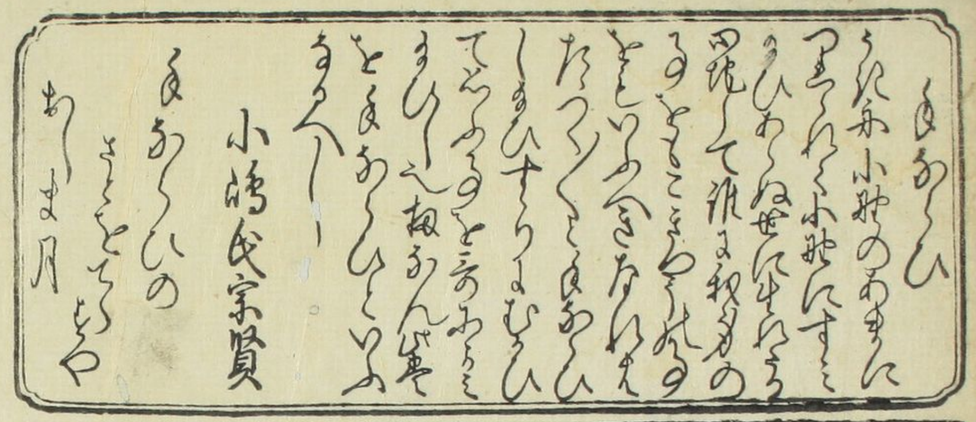
中納言貞宜

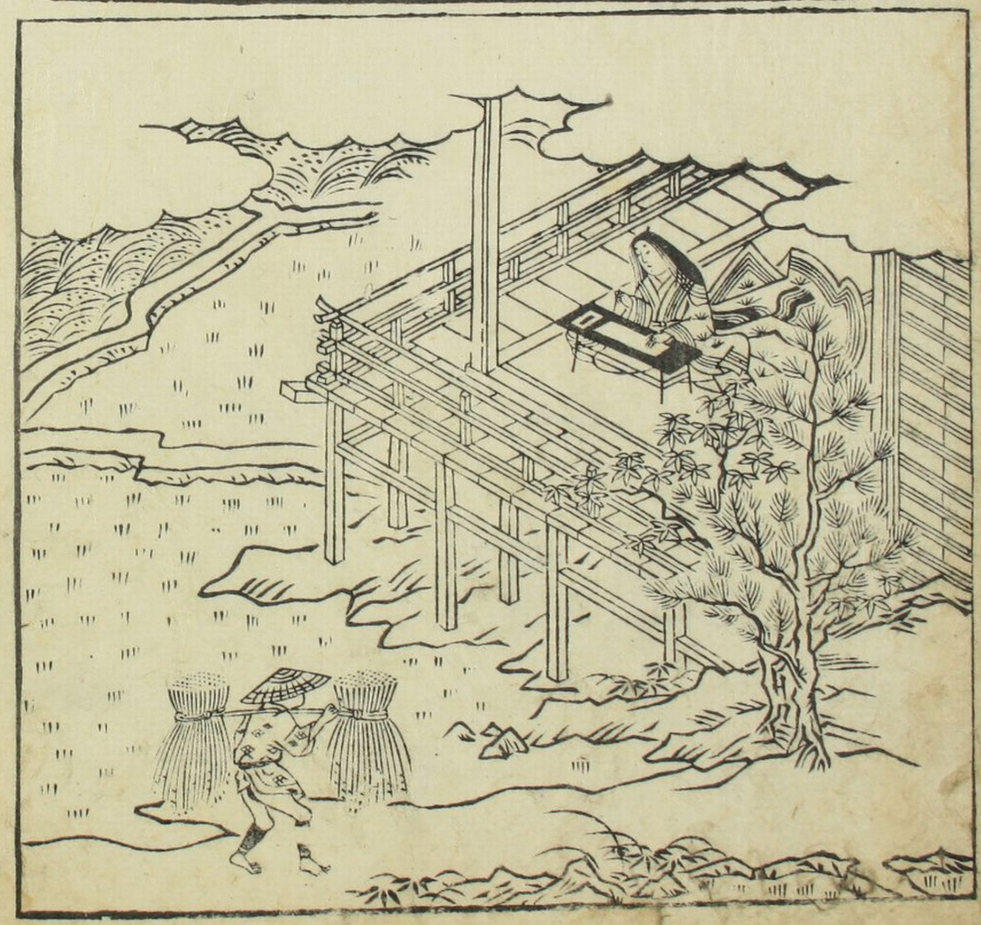
村上民令和

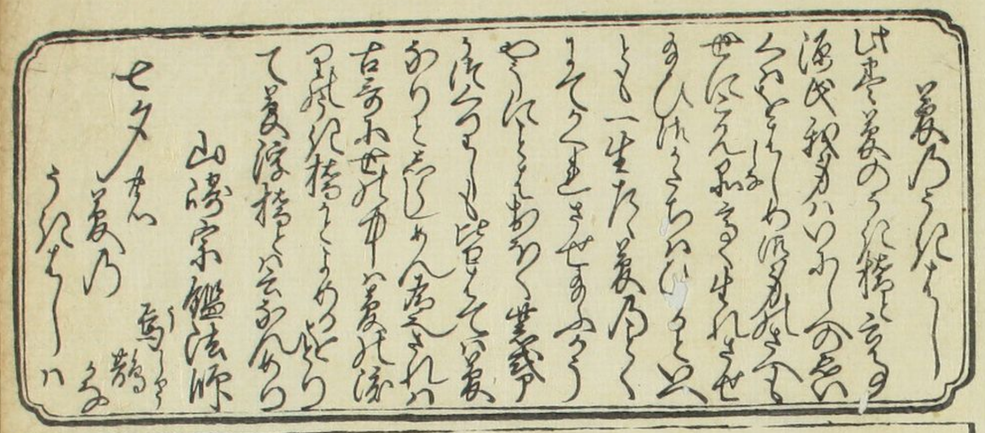
尾只清水氏不存



能村氏信房







鬢鏡後序

源氏鬢鏡者依源氏物語巻號著圖撰述世誹諧發句爲篇雖曰玩物喪志而未可始無意義也蓋源氏物語雖陽託醍醐冷泉之聖朝而陰補史家失職之闕文走筆於行事之蹟探趣於人情之願詞意艶羨以宛轉意義曲節而隱微是以不善讀者誤人多矣三綱於禮男女之交情其於善者則思周召之正風其不善者則刺鄭衛之變音所以紫氏爲之私泣明皇貴妃之綿恨其意可見也侈者示命途多差憂者喻遇合有時縉紳鑑此以正朝儀君子鑑此而明得失至若花晨憐霞以愛春日之難永月夕悲露而傷秋山之易落詞林攀材歌仙煉丹豈無能鑑此耶可謂紫氏寶鑑也昔唐太宗曰人有三鑑以銅爲鑑可正衣冠以古爲鑑可知興廢以人爲鑑可明得失世讀源氏物語者無鑑於此寧無恥紫氏之筆耶夫以當今之世干戈不動治致泰平日既久矣民偃其風各鳴其安則翫誹諧盛於古昔雖云未及風雅之德而氣象温和風俗不頽於是乎有可共

言者也是以小嶋氏宗賢鈴村氏信房共
撰此篇其要自依此篇以入紫室便照寶
鑑以内省也見此篇者無以鑑此則二氏
之用心亦可恥也所以其號源氏鬢鏡之
微意在茲哉古人有源氏小鏡又何意也
二氏乃雞冠氏令德門人令德氏是松永
氏貞德高弟也二氏之於誹諧其傳有所
由來云

萬治庚子臘月之日　偶應其需妄識其後

洛下素栢撰

江戸大傳馬三町目　鱗形屋校

万治三庚子 1660

12147 yekuda